

大阪大学 人権問題に関する講演会

知識と 技術の 共同創造

インクルーシブな
アカデミアを目指して

[講演内容]

医学や心理学、社会福祉学といった研究の受動的な対象の位置に置かれてきた障害や病のある当事者が、研究者の側に立つことで、そこから産み出される知識や技術をよりインクルーシブなものに変えるべきという問題意識は、当事者がリードし、専門家とともに科学的実践を推進する co-production of research の重要性が2018年10月に雑誌 Nature で特集されるなど、国際的にも重要なトピックとなりつつある。本講演では、日本固有の co-production 実践ともいえる「当事者研究」について、その歴史・理念・理論・方法論や、自閉スペクトラム症研究への応用などを紹介する。また、東京大学における共同創造を推進する目的で、2018年10月にスタートした user-researcher（当事者研究者）制度の意義と課題を述べる。最後に、2020年4月から始まった、苛烈な競争原理のもとで排除的な文化が広がりやすい大学を物理的・制度的のみならず、文化的にもインクルーシブなものに変革することを目指す「インクルーシブデザインラボプロジェクト」について紹介する。

令和2年9月30日（水）14時～16時
オンライン開催

[参加申込] お申し込み、参加方法の詳細はQRコードからご確認ください



[対象者] 全教職員、学生、一般の方

[主催] 大阪大学人権問題委員会

[問合せ先] 総務部総務課法規係（06-6879-7015）

[共催] 大阪大学学生生活委員会、大阪大学キャンパスライフ健康支援センター

[講師]



東京大学先端科学技術研究センター
熊谷 晋一郎 准教授

講師の熊谷晋一郎先生は、東京大学先端科学技術研究センターの准教授として、障害やトラウマ、依存症など、様々な困難をもつ当事者が中心となって研究を行う「当事者研究」の実践と研究・教育に携わっておられます。特に小児科医として、発達障害の研究や臨床に当事者研究の知見を取り入れる試みを進めています。さらに、東京大学バリアフリー支援室長として、東京大学に所属する障害のある学生や教職員にとって、構造的にも文化的にもインクルーシブなキャンパス作りを目指しておられます。